

沿革

〈種豚改良部門〉

- 昭和30年6月 琉球政府の家畜改良増殖計画に基づき、優良種畜の生産並びに畜産農家の育成を目的として石川市（現うるま市）に琉球種畜場石川支場が設立された。
- 昭和40年8月 琉球畜産試験場石川支場に改称された。
- 昭和45年10月 畜産試験場から分離し、中部畜産指導所として機構改革され、中部地区の生産増殖の指導と家畜防疫業務を行った。
- 昭和47年5月 沖縄県中部種畜育成センターとして種豚の生産並びに配布、繁殖育成技術の改善、指導を主業務とする機関として発足した。
- 昭和49年 豚産肉能力直接検定の実施
- 昭和53年 豚産肉能力併用検定の実施（買上豚）
- 平成12年 種豚の改良促進のため乳用牛育成センター内に施設の設置開始
- 平成16年4月 移転に伴い、乳用牛育成センターと統合し、沖縄県家畜改良センター種豚改良課として発足し、種豚の改良増殖に加え、新たにランドレース種の系統造成を開始した。
- 平成18年4月 組織改正により種豚改良班に改称した。
- 平成29年4月 組織改正により班制度が廃止となる。従来の業務は継続。

〈乳用牛部門〉

- 昭和44年2月 肉用牛繁殖センターとして、優良種畜の生産配布、暖地型草地における牧野管理技術の普及指導及び畜産農家の育成指導を推進する目的で設置された。
- 昭和47年5月 本土復帰による行政組織の改正により、肉用牛育成センターに
- 昭和52年12月 社団法人沖縄県肉用牛生産供給公社（石垣市在）が設立されたことにより、従来の業務を同公社に移管した。
- 昭和53年4月 酪農振興がさげられるとともに公共施設における乳用牛育成の必要性が求められ、公共育成牧場整備事業により、5カ年計画で乳用牛の育成牧場として整備した。
- 昭和56年4月 乳用牛育成センターに改称し、本県における酪農振興の拠点機関として位置づけされた。
- 昭和63年4月 組織機構改革が行われ家畜管理課、草地管理課となる。
- 平成16年4月 新沖縄県行政システム改革大綱に基づく組織改正で、沖縄県中部種畜育成センターと沖縄県乳用牛育成センターを統合し沖縄県家畜改良センターとなる。
- 平成18年4月 組織改正により乳用牛管理課と草地管理課が統合され乳用牛班となる。
- 平成29年4月 新行財政改革プランに基づき、乳用牛の飼養管理業務を沖縄県酪農農業協同組合へ委託した。（平成27年度より段階的に実施。）これに伴う組織改正により、乳用牛班が廃止となる。施設管理・予算執行等の業務は、引き続き県が実施。